

## 1. 研究目的

本研究の目的は、未成年に正しい飲酒の知識を身につけてもらうことで、未然に飲酒トラブルを防ぎ、その結果最終的に飲酒事故を減らすことである。

## 2. 調査内容(事前調査)

飲酒についての調査から分かったことは主に2つある。

1 つ目は、飲酒には急性アルコール中毒や飲酒運転などの悪い面がある一方で、コミュニケーションツールとなることやストレスの緩和など良い面もあるということである。

2 つ目は、20 代の飲酒トラブルが耐えないことである。サークルやお花見等の飲み会で盛り上がり過ぎて飲み過ぎたり、経験の浅さから自分の適量が分からず、無謀な飲酒をしてしまう等といったことが理由として考えられる。

以上のことから、飲酒トラブルを未然に防ぐために、飲酒経験がなく、飲酒に関する知識がない高校3年生、高専4～5年生、大学1年生に向けた告知物を制作し、問題解決をしていく。

## 3. コンセプトおよびアイデア展開

上記の調査内容を踏まえて、「飲酒の良い面と悪い面を伝える」をコンセプトに、飲酒の正しい知識を伝えるための告知物を制作する。

●告知媒体: 形状を工夫しやすく、繰り返し読むことができる、小冊子タイプにする。さらに、小冊子を読まずに捨てないための対策として、付録にアルパッチテストを付ける。

●小冊子の形状: 350ml のアルコール飲料の缶と同じサイズ、形状にする。親しみのある缶ビールを見たときに小冊子を思い出してもらえる効果が期待できる。また、実物と同じサイズで作ることにより疑似体感が可能になり、記憶に残りやすくなるを考える。

●告知内容と表現手法: アンケート調査を実施した結果、飲酒の危険性、対処法、お酒の種類、効用、マナーをイラスト表現で伝える。

●アルパッチテスト: 剥がしたときに酔った人のような赤くなった顔が現れるようにガーゼの部分の顔の形にする。

## 4. 最終提案(作品)

- ・ 蛇腹7つ折りの小冊子(表裏)
- ・ 122mm×448mm

- ・ アルパッチテスト用のパッチテープ付き(付録)
- ・ ベースカラーはビールをイメージした濃い黄色  
成人式、大学の入学式、スーパーの酒類売り場で配布を想定する。

「飲酒の危険性・アドバイス編」(表)

強調色は危険や警告をイメージさせる黄赤系。



- 1)表紙、2)二日酔い、3)こんな時には飲まないで、4)未成年飲酒による健康被害、5)イッキ飲み、6)万が一の対処法、7)適正飲酒の十か条

「飲酒の種類・効用・マナー編」(裏)

強調色は健康や安全をイメージさせる緑系。



- 1)表紙、2)お酒の種類、3)飲酒の効用、4)飲酒の適量、5)飲み会でのマナー、6)アルパッチテストのやり方、7)アルパッチテストの結果

## 5. 今後の発展

実際に提案物を数名の人々に読んでもらい、いくつか今後の参考となる意見をもらうことができた。具体的には、「絵がキャッチーで小冊子に興味を湧いた」や「意外と知らない知識があったので勉強になった」等である。

しかし、今回の検証では、数名にしか読んでもらえなかったため、今後は大学の入学式や成人式等で配布をし、より多くの人からの意見を踏まえて、さらに改善をしていきたいと考える。

## 参照サイト

- [1] 東京消防庁 <http://www.tfd.metro.tokyo.jp> (2015/7)  
 [2] アサヒビール(株) <http://www.asahibeer.co.jp> (2015/7)  
 [3] サントリー(株) <http://www.suntory.co.jp> (2015/7)  
 [4] サッポロビール(株) <http://www.sapporobeer.jp> (2016/1)